



# 上川井だより

令和3年10月29日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山崎 真紀子

11月号

## 振り返る力

副校長 高嶋

聡

校庭の桜の木はすっかり葉を落とし、秋の深まりを感じます。とても暑い日が多かった10月初旬に比べ急激に気温が下がり、体調を崩し気味の児童も多いようです。ご家庭での体調管理を引き続きよろしくお願いたします。新型コロナウイルスの感染者数は、ここ数日はとても少ない数で推移しています。学校でも緊急事態宣言の解除を受け、家庭科の調理実習が行われ、音楽朝会も再開しました。11月には4年生は関内ホールでのバレエ鑑賞、6年生は鎌倉校外学習に出かける予定です。今後の感染再拡大についてはまだ安心できない状況ですが、感染対策を行いながら、子どもたちにとって貴重な経験をする機会を増やしていきたいと思えます。

令和3年度も早いもので折り返しを過ぎました。お子様のこの半年の成長はいかがだったでしょうか。学校では前期の自分を振り返り、後期のめあてをもつことを各学級で行っています。また、日頃の授業の中でも、自分の取り組みがどうだったかを振り返ることを心がけさせています。この「自分を振り返る」ということは、実はとても難しいことなのですが、一人ひとりにしっかりと身につけさせたい大切な力だと私は考えています。

自分自身を客観的に見るというのは大人でもなかなかできないものです。嫌なことが起きたり、失敗したりしたときには、ついつい周りのせいにしてしまうことが私自身もよくあります。たいていの場合、自分自身の言動にも問題があったり、すべきことを怠っていたりが原因なのですが、、、。そして周りのせいになっているうちは気持ちがすっきりせず、イライラが募ってしまうものです。子どもたちを見ていても、何かトラブルやうまくいかないことがあった際に、自分自身にも目が向く子と相手にのみ目を向ける子がいます。自分に目を向けるということは、相手の立場になって考えることにつながります。それがやがて思いやりの心にもつながっていくのではないのでしょうか。思いやりの心を育てることは、教育の最も大切なことのひとつだと考えています。「自分自身を見つめる」ことの大切さを子どもたちに伝えていきたいと思えます。

さて、読書の秋です。学校では、読書週間として、学校司書や図書委員会が中心となってブックマラソンをはじめ様々な企画で本に親しむ機会を増やしています。

私は同じ本を繰り返し読むことは少ないのですが、1冊だけ何度も読んでいる本があります。心が疲れた時、気持ちが沈みがちな時に自分を支えてくれる本です。斎藤茂太さんの「いい言葉は、いい人生をつくる」という本です。斎藤茂太さんは、有名な歌人の斎藤茂吉さんの長男で、精神科医として病院経営もなさっていた方です。著名人の言葉を紹介しながら人生を明るく前向きに生きるために必要な心の持ち方や考え方を示してくれています。現代社会でストレスを抱えながら暮らす多くの人々を診察してきたからこそその考え方に私は共感を覚えました。この本を読みながら自分自身を振り返ることで気持ちを楽にすることができました。大切なこの1冊に出会えてよかったと思っています。上川井小学校の一人でも多くの子どもたちにも素敵な本との出会いがあることを願っています。